

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	平成医療学園専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	柔道整復師科 (昼間部)	夜・通信	270 時間	240 時間	
	鍼灸師科 (昼間Ⅰ部・Ⅱ部)	夜・通信	300 時間	240 時間	
文化・教養専門課程	日本語学科 (日本語1年コース)	夜・通信	0 時間	80 時間	※
	日本語学科 (医療福祉系1年コース)	夜・通信	0 時間	80 時間	※
	日本語学科 (進学1.5年コース)	夜・通信	0 時間	120 時間	※
	日本語学科 (進学2年コース)	夜・通信	0 時間	160 時間	※
	応用日本語学科 (1年コース)	夜・通信	0 時間	80 時間	※
	応用日本語学科 (2年コース)	夜・通信	0 時間	160 時間	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ホームページ「 https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/ 」に掲載
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	日本語学科、応用日本語学科
(困難である理由) 日本語学科及び応用日本語学科については、法務省告示基準に基づく教員要件のもと、日本語習得レベルに見合う教員を配置しており、所謂産業界に携わっている、或いは産業界の企業等での実務経験者を教員として配置していない。本学科は日本語を母語としない学習者に日本語を教える語学教育が目的であることから、日本語教員としての指導力と経験値を採用の基準として重視している。 以上のことから実務経験のある教員の配置が難しく、要件を満たすことが出来ない。	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	平成医療学園専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開している。 https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	有限会社エビススポーツマッサージ副社長 (1992. 6. 30～2008. 5. 31) 株式会社エビススポーツマッサージ社長 (2008. 6. 1～)	平成 13 年 4 月 1 日～ 令和 11 年度の定時 評議員会終結の時	企画・調整
非常勤	オリエントメディカルサービス株式会社取締役 (2011. 8. 31～) 学校法人福寿会理事 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 11 年度の定時 評議員会終結の時	産学連携
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	平成医療学園専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
【作成に係る取組み】 授業計画書については、全学科共通の様式を使用しており、以下の内容について毎年度学科内で検討を行い、作成している。 ・授業内容 ・到達目標 ・授業方法 ・授業科目の設定 ・授業スケジュール ・担当教員の選定 ・成績評価の方法・基準 ・その他必要事項 【公表に係る取組み】 授業計画書を毎年度 HP 上に公開している。	
授業計画書の公表方法	https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。 尚、評価は、優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）の4段階で表す。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 【医療専門課程】 授業科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。(100点満点で点数化) これによって算出した平均点を客観的な指標とする。 【文化・教養専門課程】 授業科目の成績を4段階(優・良・可・不可)で評価し、成績評価係数を算出する。 これによって算出した成績評価係数を客観的な指標とする。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学則で定めている卒業要件となる全ての単位を修得(または所定の授業時間数を履修)し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	平成医療学園専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/
財産目録	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/
事業報告書	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2,805 <u>単位時間</u> ／単位	1,470 単位時間 ／単位	525 単位時間 ／単位	180 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	630 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180 人		114 人	0 人	7 人	14 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、毎年度ホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている卒業要件となる全ての単位を修得し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 様々な種類の自由参加型ゼミを開講している。 また、定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
41 人 (100%)	8 人 (19.5%)	32 人 (78.1%)	1 人 (2.4%)
(主な就職、業界等) 病院、接骨院・整骨院等			
(就職指導内容) 面談の実施や、就職フェアへの誘導などを実施。 また関連団体を通して、就職先紹介も行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師国家試験 33 名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
136 人	11 人	8.1%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業成績が振るわない学生に対する支援策として、担任教員による個別面談に加えて、補習や個別指導等も行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	鍼灸師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2,665 単位時間／単位	1,825 単位時間 ／単位	150 単位時間 ／単位	180 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	450 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
171 人		102 人	0 人	7 人	19 人	26 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、毎年度ホームページにて公表している。

成績評価の基準・方法
(概要) 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則で定めている卒業要件となる全ての単位を修得し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
(概要) 様々な種類の自由参加型ゼミを開講している。 また、定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23 人 (100%)	2 人 (8.7%)	20 人 (87.0%)	1 人 (4.3%)
(主な就職、業界等) 病院、鍼灸院等			
(就職指導内容) 面談の実施や、就職フェアへの誘導などを実施。 また関連団体を通して、就職先紹介も行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師国家試験 23 名合格 きゅう師国家試験 23 名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
109 人	8 人	7.3%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気・けが等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業成績が振るわない学生に対する支援策として、担任教員による個別面談に加えて、補習や個別指導等も行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本語学科 1年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	850 <u>単位時間</u> ／単位	612 単位時間／単位	154 単位時間／単位	16 単位時間／単位	単位時間／単位	68 単位時間／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		1人	1人	8人の内数	22人の内数	30人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、毎年度ホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的に行い、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 定期的な面談や、補習を実施していく計画である。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
-人 (0%)	-人 (0%)	-人 (0%)	-人 (0%)
（主な就職、業界等） —			
（就職指導内容） —			
（主な学修成果（資格・検定等）） —			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
-人	-人	-%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) —		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本語学科 医療福祉系 1 年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間	850 <u>単位時間</u> ／単位	612 単位時 間／単位	154 単位時 間／単位	16 単位時間/ 単位	単位時間／単位	68 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		3 人	3 人	8 人の内数	22 人の内数	30 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、毎年度ホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生面談を定期的 to 実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う
学修支援等
(概要) 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 (100%)	6 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 食品やプラスチック製品等の製造業、建設業、学校事務等			
(就職指導内容) 就職に関する個人面談や、就職フェアへの誘導などを実施。 さらに、履歴書の記入方法に関する指導や就職面接における指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) JLPT（日本語能力試験）N2 2名、N3 3名、N4 1名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) —		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本語学科 進学 1.5 年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼間	1,275 <u>単位時間</u> ／単位	816 単位時 間／単位	248 単位時 間／単位	24 単位時間／ 単位	単位時間／単位	187 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		58 人	58 人	8 人の内数	22 人の内数	30 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、毎年度ホームページにて公表してい る。

成績評価の基準・方法
(概要) 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
(概要) 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
48 人 (100%)	40 人 (83.3%)	8 人 (16.7%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 食品やプラスチック製品等の製造業、建設業、学校事務等			
(就職指導内容) 就職に関する個人面談や、就職フェアへの誘導などを実施。 さらに、履歴書の記入方法に関する指導や就職面接における指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) JLPT（日本語能力試験）N2 4名、N3 9名、N4 1名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) —		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本語学科 進学2年コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,700 <u>単位時間</u> ／単位	1,088 単位時間/ 単位	308 単位時間/ 単位	32 単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	272 単位時間/ 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		140人	140人	8人の内数	22人の内数	30人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、毎年度ホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
40人 (100%)	36人 (90%)	3人 (7.5%)	1人 (2.5%)
（主な就職、業界等） 食品やプラスチック製品等の製造業、建設業、学校事務等			
（就職指導内容） 就職に関する個人面談や、就職フェアへの誘導などを実施。 さらに、履歴書の記入方法に関する指導や就職面接における指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） JLPT（日本語能力試験）N1 1名、N2 7名、N3 15名合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114 人	2 人	1.8%
(中途退学の主な理由) 問題行動による懲戒等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 遅刻や欠席の数が著しく増加している学生に対する支援策として、担任教員等による個人面談を行っている。この面談を通して、学生自身が抱える不安要素を払しょくすると共に学修意欲を確認し、その回復のための生活指導を徹底している。 また、学修面或いは生活面のいずれかに問題が見られる場合には、学生の家族と密に連携し、その解決に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		文化・教養 専門課程	応用日本語学科 1年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	856 <u>単位時間</u> ／単位	409 単位時間/ 単位	205 単位時間/ 単位	16 単位時間/ 単位	単位時間/単位	226 単位時間/ 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		30人	30人	1人の内数	22人の内数	23人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、毎年度ホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32 人 (100%)	29 人 (90.6%)	1 人 (3.1%)	2 人 (6.3%)
(主な就職、業界等) 食品やプラスチック製品等の製造業、建設業、学校事務等			
(就職指導内容) 就職に関する個人面談や、就職フェアへの誘導などを実施。 さらに、履歴書の記入方法に関する指導や就職面接における指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) JLPT（日本語能力試験）N2 7 名、N3 15 名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) —		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	応用日本語学科 2年コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,708 <u>単位時間</u> ／単位	935 単位時間／単位	315 単位時間／単位	72 単位時間／単位	単位時間／単位	386 単位時間／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		35人	35人	1人の内数	22人の内数	23人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、毎年度ホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的に実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
-人 (0%)	-人 (0%)	-人 (0%)	-人 (0%)
（主な就職、業界等） —			
（就職指導内容） —			
（主な学修成果（資格・検定等）） —			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	5 人	23.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更、家庭の事情、病気・けが等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 遅刻や欠席の数が著しく増加している学生に対する支援策として、担任教員等による個人面談を行っている。この面談を通して、学生自身が抱える不安要素を払しょくすると共に学修意欲を確認し、その回復のための生活指導を徹底している。 また、学修面或いは生活面のいずれかに問題が見られる場合には、学生の家族と密に連携し、その解決に努めている。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
柔道整復師科	250,000 円	870,000 円	440,000 円	「その他」に含まれるのは、施設管理費と教材費。
鍼灸師科				
日本語学科（1 年コース）	100,000 円	620,000 円		
日本語学科（医療福祉系 1 年コース）	100,000 円	620,000 円		
日本語学科（進学 1.5 年コース）	100,000 円	620,000 円		1 年次の授業料は 310,000 円。
日本語学科（進学 2 年コース）	100,000 円	620,000 円		
応用日本語学科（1 年コース）	100,000 円	670,000 円		
応用日本語学科（2 年コース）	100,000 円	670,000 円		
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
業界関係団体に勤務している方や卒業生などを評価委員として複数名招聘し、自己評価の客観性ならびに透明性を担保するため、教育課程などの項目について様々な角度から評価をしていただく。 その評価結果を参考とし、次年度の教育および学校運営水準の更なる向上を目指すことを基本方針とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
明治国際医療大学	2021. 4. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	企業等委員
おかげ堂うすき鍼灸整骨院	2021. 4. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	卒業生・企業等委員
なみかわ はり・きゅう院	2021. 4. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310001726
学校名（〇〇大学 等）	平成医療学園専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人平成医療学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		- 人（ 0）人	- 人（ 0）人	- 人（ 0）人
内 訳	第Ⅰ区分	- 人	- 人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	- 人	- 人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0人	- 人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				- 人（ 0）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。